HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	編集後記
Author(s)	山本, 美穂子
Citation	北海道大学大学文書館年報, 10, [97]
Issue Date	2015-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/59216
Type	other
File Information	ARHUA10_007.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

〔編集後記〕

◇本号では、近代建築史専門の池上重康先生（工学研究院）から、マサチューセッツ農科大学の第３代学長であったW．S．クラークのもとで1869年に新築され、1871年に改良されたバーン（barn；家畜房）についての論考をお寄せいただいた。同大学後身のマサチューセッツ大学アマースト校に赴き、同大学所蔵写真を調査された成果である。また、大学文書館からは、札幌農学校初代教頭W．S．クラーク着任に際する学内外の反響を示す資料の翻刻、札幌農学校第１期生の大島正健と伊藤一隆の関係資料目録、1898年学位令下における札幌農学校教官・卒業生の学位取得に関する論文を掲載した。期せずして、札幌農学校史に関する特集となった。

◇2014年中は、札幌農学校第２期生の新渡戸稲造（元札幌農学校教授・国際連盟事務次長）に関する出来事が続いた。まず、３月には、「新渡戸カレッジ」（国際性を育むことを目的に、学部教育と並行して、各種教育を実践する特別教育プログラム）からの要請により、ブックレット『新渡戸稲造ストーリー――札幌農学校からの行路』を製作した。同ブックレットは、2014年度入学の新渡戸カレッジ受講者に配布された。５月と10月には「新渡戸カレッジ」共催科目の受講生を対象に、資料見学学習会を開催した。さらに、７月には、札幌市より、遠友夜学校関係資料を北海道大学が受贈し、大学文書館にて整理・保管することとなった。遠友夜学校は、新渡戸稲造・メアリー夫妻が札幌に1894年に札幌に創設した、貧困等で学校に通学できない子どもたちのための学校である。1944年閉校に至るまで、夜学校教師には農学校生・北大生が主にあたり、学校運営・財政維持には、宮部金吾・大島金太郎・有島武郎・半澤洵・平塚直治といった札幌農学校卒業生が中心的な役割を果たした。７月下旬からは百年記念会館２階展示ホールで、2015年１月からは附属図書館正面玄関ロビーにおいて、遠友夜学校の歴史に関する展示を開催している。

（山本）

北海道大学大学文書館年報　第10号

2015年３月31日発行

編集・発行　北海道大学大学文書館

〒060-0808 札幌市北区北８条西５丁目

電話　011-706-2395（FAX 兼）

印　　刷　岩橋印刷株式会社

© 2015 Hokkaido University Archives

Printed in Japan.